

# 緑資源幹線林道、平取・えりも線「様似・えりも区間」

## 予定地周辺に記録された絶滅危惧植物

(北海学園大学 佐藤 謙)

環境庁 (2000) : 絶滅危惧 I A類 **CR**、絶滅危惧 I B類 **EN**、絶滅危惧 II類 **VU**  
北海道 (2001) : 絶滅危機種 **Cr**、絶滅危惧種 **En**、絶滅危急種 **Vu**、希少種 **R**  
環境庁 (1976) : 第一回緑の国勢調査における貴重植物 **K**

### 1. 林道予定地周辺の絶滅危惧植物

#### (1) 既存研究、事業者による環境影響評価書ならびに筆者の調査結果による30種

ヤシャゼンマイ		R	K
トガクシデンダ *		R	K
オオエゾデンダ	EN	R	K
ミヤマビャクシン		Vu	
ケショウヤナギ	VU	R	
クシロワチガイソウ	VU	Vu	
ヒダカトリカブト		R	
フクジュソウ	VU	Vu	
チャボカラマツ	VU		
シラネアオイ		Vu	
オクエゾサイシン		R	
ベニバナヤマシャクヤク	EN	En	
エゾノジャニンジン	VU		
モミジバショウマ	EN	R	
エゾシモツケ	EN		
イワヨモギ	VU		
エゾオトギリ	VU		
ホソバトウキ (同亜種内のトカチトウキ)	VU		
エゾムラサキツツジ	VU		K
カムイコザクラ	CR	Vu	K
エゾオオサクラソウ		R	K
エゾキシタソウ *	VU		
エゾハナシノブ	VU	R	K
エゾヒョウタンボク	EN		
ベニバナヒョウタンボク	VU		K
コモチミミコウモリ	EN		
サヤスゲ (ケヤリスゲ) *	EN		
クマガイソウ	VU	En	
サルメンエビネ	EN	En	
コイチヨウラン		En	

\* 上記30種のうち、\*印の3種は、事業者による環境影響評価書に記録されているけれども、森林内における出現は極めて特異であるので、同定間違いも想定される。

#### (2) 既存研究に記録され、現在、生育地の詳細が把握されていない11種

以下の11種は、信頼できる既存研究に記録されているが、目下、生育地が詳細には把握されていない。ただし、これらは、沿岸ではなく日高南部の内陸に分布・生育すると想定されるので、今後の綿密な調査によって林道予定地周辺に確認される可能性が高い。

スギラン	EN	Vu
ウチワゴケ		R
ヤマネコノメソウ		R
エダウチアカバナ	CR	Cr
ヒメハッカ		Vu
ムラサキ	EN	En
カイジンドウ	EN	
ヤマジソ	VU	
チシマヒョウタンボク	VU	
ヒメアマナ	EN	Vu
ジンバイソウ		R

## 2. 環境庁(1976)：第一回緑の国勢調査による貴重植物(K)の追記

事業者による環境影響評価書では、国または北海道のRDBに掲載されていない、標記の貴重植物も注目されている。以下の5種は、評価書において無いと報告されたが、実際は予定地から確認されている。

ヒメスギラン	K
リシリシノブ(希少な高山植物、何故かRDBに掲載されていない)	K
エゾノレイジンソウ	K
ミヤマキヌタソウ	K
エゾノムカシヨモギ	K

### 追記. 日高南部の既存植物研究に記録されてきた、他の絶滅危惧植物

日高南部における既存研究には、さらに、以下の絶滅危惧植物23種も記録され、評価書では引用された上で予定地に無いとの結論が示されている。しかし、これらは、既存研究では沿岸部と超塩基性岩地のように、特殊な生育地から記録されており、元々、内陸の林道予定地周辺には出現しないと想定される。以下の記号は、それぞれ、海崖C、海岸風衝地W、砂丘D、塩沼地S、湿原M、超塩基性岩地(橄欖岩あるいは蛇紋岩)Uを意味する。

ヒメハナワラビ	W	VU	
ハマハナヤスリ	WD		R
シコタンキンポウゲ	M	EN	K
ナガバカラマツ	U	EN	Vu
ヒダカミセバヤ	C	VU	Vu
ホザキシモツケ	M	VU	
エゾサイコ	U		R
エゾゴゼンタチバナ	W	EN	R
ヒダカイワザクラ	C	VU	Vu
ムシャリンドウ	WD	EN	Vu
キキョウ	U	VU	Vu
ホロマンノコギリソウ	UD	VU	
シコタンタンポポ	WD	EN	
タマミクリ	M	VU	
イトモ	M	VU	
ホソバノシバナ	SM	VU	
エゾハリスゲ	M	VU	
エゾサワスゲ	M	VU	
エゾノミクリゼキショウ	M	EN	R
エゾヒメアマナ	C	VU	R
クロユリ	WM		R
ミズトンボ	M	VU	R
トキソウ	M	VU	Vu

さらに、内陸に分布するヒダカミツバツツジCR・Crについては、林道予定地から離れた生育地が別に特定されている。